

資 料

花川北・南地区の小学校の現状等について

平成14年6月6日

石 狩 市 教 育 委 員 会

1 児童数の推移

近年、少子化の傾向が一段と進む一方、特に本市の花川北地区は、昭和48年から住宅建設が短い年時で行なわれたこと、また住宅購入の年代層が30～40代であり、小学校への入学対象児童数も多かったが、団地完成後、今日まで新たな人口流入がなく、そのまま20数年経ており、児童数の減少は急速に進んでいる。

*平成元年からの学級数と児童数の推移

平成 年度	学 級 数	児 童 数(人)
1	146(5)	4,930(20)
2	148(6)	4,841(20)
3	148(6)	4,705(19)
4	142(6)	4,576(20)
5	142(6)	4,508(22)
6	138(6)	4,405(26)
7	131(6)	4,186(27)
8	132(6)	3,948(30)
9	128(6)	3,707(29)
10	124(6)	3,568(26)
11	119(6)	3,478(19)
12	118(6)	3,362(18)
13	115(6)	3,328(21)

()内は特殊学級内数

平成元年度と平成13年度を比較すると学級数では、31学級の21%の減、児童数では1,602人の32%の減となっている。

2 花川北・南地区の学校別状況

花川小学校

緑苑台地区の児童の増加から、平成14年度5月1日現在、16学級、484人となっており、その分離校として(仮称)緑苑台小学校を平成15年4月開校を目指して建設中。

若葉小学校

昭和52年4月に21学級399人で開校、その後児童数の急増から昭和54年1月に紅葉山小学校を分離新設、分離後の児童数では昭和58年に856人、学級数では昭和59年の26学級を境に減少し、平成14年5月1日現在、9学級、216人(特学2学級、児童9人含む)であり、さらに減少が予測される。

紅葉山小学校

昭和54年1月に若葉小学校の分離校として開校、昭和59年には38学級(特学2学級を含む)、児童数1,490人を境に減少し、平成14年5月1日現在、10学級、253人(特学1学級、児童2人を含む)であ

り、更に減少が予測される。

南線小学校

昭和55年に33学級、児童数1,347人(プレハブ5教室で対応)となり、昭和56年花川南小学校を

昭和60年に花川北地区の一部を編入して紅南小学校を分離開校。分離後、平成5年に26学級、954人とピークとなるが、その後減少傾向を見せていたものの、樽川3地区において、区画整理組合や民間による開発面積92,7ha計画居住人口6,570人の宅地造成が進んでいることから、再び増加をたどりはじめ平成14年5月1日現在、24学級、874人となっている。今後も樽川地区への入居から児童数は増加すると予測される。

花川南小学校

昭和56年4月に16学級、596人として南線小学校から分離し、児童数では平成元年4月の979人(26学級)、学級数では平成5年4月には28学級(946人)がピークとなるが、その後は減少化をたどり、平成14年5月1日現在、22学級、673人(特学2学級、児童2人含む)であり、更に減少が予測さ

れる。

紅南小学校

昭和60年4月に20学級、797人として、花川北地区の一部を編入して南線小学校から分離。平成1

4年5月1日現在、15学級、376人(特学3学級、児童10人含む)であり、更に減少が予測される。

3 過去の通学区域変更

昭和62年4月に花川北1条4丁目を紅南小学校から紅葉山小学校へ、花川北3条2丁目の一部を紅葉山小学校から若葉小学校へ各々変更し、急増する児童へ通学区域の変更を行なった。

4 検討視点について

通学区域の変更を行なうに当たって、その基本的な考え方は、平成20年度を見越した学校間の児童数

の適正を図ること、また本年度から取り進めている地域教育の観点から、通学区域を個々の町内会単位を

基にする。

1、区域

南線小学校から花川南小学校へ	花川南2条3丁目 花川南3条3丁目 花川南3条4丁目 花川南4条4丁目
南線小学校から紅南小学校へ 紅南小学校から南小学校へ	花川南1条3丁目 花川南2条4丁目 花川南2条5丁目（1番地～162番地まで）
紅葉山小学校から紅南小学校へ 紅葉山小学校と若葉小学校の措置	花川北1条4丁目 (但し花川北1条4丁目を除く)

2、通学区域変更に伴う通学距離の比較

南線小学校から南小学校への変更

最も距離が長くなるのは630mが1,050mとなり、約1.7倍、最も距離が短くなるのは1,370mが270mの約5分の1となる、平均で1,020mが760mと約3割減となる。

南線小学校から紅南小学校への変更

最も距離が長くなるのは900mが1,360mとなり約1.5倍、最も距離が短くなるのは1,460mが810mとなる、平均では1,180mが1,090mと1割減となる。

紅南小学校から南小学校への変更

最も距離が長くなるのは710mが1,300mとなり約1.8倍、最も距離が短くなるのは1,370mが1,100mとなる、平均では940mが1,110mと2割増となる。

紅葉山小学校から紅南小学校への変更

全てが短くなり、平均で690mが560mと約2割減となる。

3、通学区域変更の時期について

- 1、南線小学校は特別教室を普通教室に転用し24学級となっており、平成14年度に予定しているパソコン

整備に図書閲覧室を使用することとなる。更に平成15年度には、25学級(旧教室の改装し使用)となることから、平成15年度に変更後の通学区域とする。

但し、紅葉山小学校と若葉小学校の措置については平成17年4月以降の実施とし、今後検討してい

く。

5 通学区域変更の事務処理について

- 1、通学区域審議会審議への諮問

.....・平成14年6月～

2、審議会

PTA、保護者、地区各町内会等への説明と意見・考え方を集約

- 3、通学区域審議会審議からの答申 ・平成14年10月
- 4、教育委員会会議に提案・議決 ・平成14年11月
- 5、石狩市議会教育環境常任委員会に報告 ・開催時に逐次報告
教育委員会会議に報告 ・開催時に逐次報告